



下関市長の部屋

検索

<http://www.city.shimonoseki.lg.jp/>

市議会第1回定例会で施政方針を発表。第2次下関市総合計画に位置付けた8つの施策の柱に沿って平成27年度予算を説明。  
※平成27年度予算の詳細は5月号に掲載します

## 「輝き海峡都市・しものせき」の実現へ 第2次下関市総合計画がスタート

**こ** んにちは。市長の中尾友昭です。この4月には、平成27年度から今後10年間の新しいまちづくりの方向を定めた、第2次下関市総合計画がスタートします。

まちづくりの基本理念を「まちの誇りと自然の恵みを未来へつなぐ 輝き海峡都市・しものせき」とし、誰もが本市で暮らす幸せを実感し、愛着を深め、知りたい、行きたい、住みたい魅力のあるまちを目指します。まちづくりの将来像として

- 「魅力あふれる人・文化を育み、いきいきと交流するまち」
- 「多彩な人が輝き、活力ある産業が振興するまち」
- 「みんながともに学び、ともに楽しむ、人を育てるまち」
- 「美しく潤いのある自然やまちなみと人が共生するまち」
- 「効率的で活動しやすい都市機能を備えるまち」
- 「誰もが安全で安心して暮らせるまち」
- 「人と人が支え合う誰もが健やかで笑顔があふれるまち」
- 「人のつながりを大切にし、地域の力が活きるまち」

という8つの柱を掲げ、その実現に取り組みます。特に国を挙げての重要課題として捉えられている人口減少・少子高齢化問題に対応するため、「都市の魅力向上」と「暮らしやすさ向上」の2つを重点取り組み方針としました。

**今**、地方創生と言われているが、魅力あふれる地方の創生を行うのは国ではなく地方です。そのためには自らの地域の魅力、資源に気付き、それを磨いていき、自分が住んでいるまちに誇りを持つことが大切です。

幕末・維新、源平合戦や巖流島の戦いなど歴史上のドラマにまつわる史跡の宝庫、関門海峡や角島をはじめとする美しい景観、「ふく」「つに」「くじら」「あんこう」「いか」をはじめとする多彩な食文化など、下関にはまちの誇りと自然の恵みがどこよりも多くあります。

第2次下関市総合計画を推進することにより、このまちの誇りと自然の恵みを活かすとともに、市民の皆さん・事業者・行政がそれぞれの役割を自覚し、力を結集するまちづくりを進め、輝き続けるふるさと・下関を皆さんと一緒に実現してまいります。

### しものせきナビ vol.54

下関の国宝

功山寺仏殿

下関市長府川端一丁目2番3号

古刹として知られる功山寺には多くの文化財があり、なかでも国宝に指定された仏殿は、元応2（1320）年の建築とされ、鎌倉時代に中国から伝来した禅宗様の建築様式を示す代表的な例です。年代が判明する方三間裳階付（※1）の仏殿では、最古の建築かつ最大級の規模を誇ります。



禅宗様建築は、他の様式と比べ、装飾的要素に富んでいます。功山寺仏殿でも、上部が曲線を描く花頭窓、側面と背面に立込んだ弓欄間、扇状に配置された垂木のほか、軒下に密に配置された斗拱（※2）など、意匠の効果を高める要素が数多く見られます。本来柱上に置かれる斗拱を柱間にも配置する詭組は、禅宗様建築の特徴のひとつです。これらの特色は純粋な禅宗様建築の形を示し、とても美しい姿を私たちに見せてくれています。春の訪れを迎えるこの季節、満開の桜のもと仏殿を愛でてみませんか。

（※1）方三間裳階付：正面・側面とも柱間二間の主屋の周囲に、裳階（差し掛け屋根の下屋）を廻らす形式。  
（※2）斗拱：四角い斗と腕木状の肘木を組み合わせて構成される、軒を支える装置。

※国宝（建造物）…重要文化財のうち、世界的見地から価値が高く、構造や意匠などが特に優れ、かつ、文化史的意義が深いもの